

# 政務調査研究視察 報告書

報告者： 稲垣 良美

視 察 日	平成19年 7月 25日 (水)
視 察 先	旭川市
視 察 内 容	旭山動物園について
視 察 者	稲垣良美 他5名 計 6名

旭川市

## <旭山動物園について>

### 旭川市の概要

人口 356,087人  
面積 747.60km<sup>2</sup>  
世帯数 167,410世帯

### 動物園の経緯

「日本最北の動物園」として開園したのが1967年7月1日、その年の入園者数は458,000人、その後も着実に入園者は増えた、しかし1983年の597,000人をピークにレジャーの多様化などで、減少傾向に転じた。

年間4億円前後の経費がかかる動物園に対し、市議会では一部の議員から「市のお荷物」といった不要論が起き、市が民間委託を検討しているという話まで出た。

遅れている生活基盤の整備が重視される時代背景もあり、それ以来修繕費など、動物園を維持する最低限の予算しかつかなかった。

こうした逆風の中でも旭山動物園の職員は理想の動物園を求める努力を怠らなかった。

担当飼育係による「ワンポイントガイド」、夏休みの小学生を集めての「サマースクール」、動物の情報を伝える手書きの「情報板」の設置、スタッフ手づくりの、費用のかからないことから取り組みは始まった。飼育係たちは、夕方の閉園後も日々の飼育体験や知識を共有しながらお金があれば、こんな施設を造りたいという夢をいつも語り合っていた。

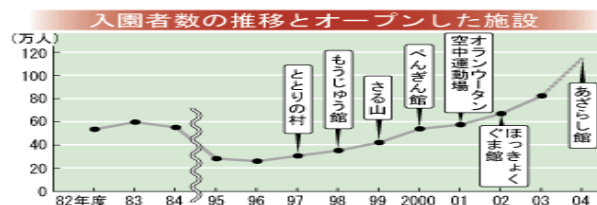
しかし、1994年夏にローランドゴリラ、ワオキツネザルが死に、ともに死因がエキノコックス症と判明、冬場の10月末の閉園予定日まで2ヶ月を残し、8月27日から途中閉園したが、エキノコックスの影響は大きかった、例年通り4月に再開した翌1995年度の入園者は283,000人、1996年度には開園以来最低の260,000人にまで落ち込んだ。

【動物の素晴らしさ、動物とふれあう楽しさを感じてもらい、人と自然とのかかわりに目を向けてもらうのが動物園の役割】

「こども牧場」がオープンしたのは1997年4月。その二年前にスタッフが手づくりした「ふれあい広場」を整備して新設した。入園者数が減る中で、動物を抱き、命のぬくもりを感じられる「広場」は、子供たちの人気の的だった。

「こども牧場、とどりの村、パスポート、この3つが後の旭山にとって大きかった」3つの取り組みを集中させた1997年度は入園者は過去最低だった前年度を約45,000人上回り、4年ぶりに300,000人台を回復した。

翌年度以降、「もうじゅう館」や「ペンギん館」など、旭山が目指す「行動展示」施設が次々に実現していった、いずれも厳しい時代に、お金があつたらこんな施設をと職員たちが描いた夢のスケッチを基にしたのであった。



収支状況と入場者数

(単位：万)

	平成6年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
歳出	479	695	1311	1121	804	1190	1572
歳入	105	366	965	822	749	1265	1475
繰入	374	329	346	314	55	0	
入園	28			82	145	206	304

### 旭山動物園概要

敷地面積 148,681.84㎡

飼育点数 144種類708点

入場料 大人580円 パスポート1,000円 中学生以下無料 障害者免除

休園日 10月23日～11月2日 12月30日～1月1日

### 施設の特徴

近年建てられた動物舎は色々な角度から動物を見る事が出来るように建てられている。

立地的傾斜を利用した建物で同じ動物を何度も見る訳だが諄さが無い、角度によって同じものが違って見える時もあるから不思議だ、こんな体験はここだけかな？

### 〔感想・岡崎市への反映〕

旭山動物園は年間入場者数が20万人という危機的な状況から平成18年度304万人と驚異的再興を果たした人気の動物園です。

入場者数の動向は平成9年約31万人・平成15年82万人・平成16年145万人・平成17年206万人・平成18年304万人そして平成19年には10%増の340万人を見込むまでに至っている。

成功した背景には第一に職員の意識改革の努力とアイデアを揚げるわけですが、又中学生以下入場無料、見せる動物園から動物の生態を実感出来る動物園に切り替えたことが入場者数増加の効果を得、又この地域的環境の中で累積赤字は残るものの単年度ベースでは黒字に至ったことは大いに評価されることです。

本市の東公園再整備計画がいよいよスタートします、まず5,000㎡の面積に動物と人が目線で見ることが出来る動物にふれることが出来る「ふれあいゾーン」の建設と保健所・公園緑地課・環境課・農務課を一つの窓口にしたワンストップサービスの出来る動物総合センターをスタートし、動物園舎の建設をします。

本市は旭川市に比べ立地、交通アクセス、人口等条件において恵まれた優位性を感じた次第です。

東公園に面積、動物の種類、職員数等規模の面において小規模であるが、市民の皆様喜んでいただける公園建設が可能であることを確信しました。

とりわけ旭山動物園は森林を活かした環境面に配慮した動物園造りを目指している面も大変参考になりました。

奇しくも東公園も緑の多い公園であり動物の生態と環境に配慮して2度・3度と見たくなる公園造りを提案して行きたいと思えます。

ただ一人勝ちしてる旭山動物園を視察して感じたことは市の職員やサポート職員の対応があまりに素っ気なかったことである、忙しさのあまり自分の受け持ちのみのことしか目に入らないような感じがしてならなかった、私どもが尋ねたことに対しサポート職員は殆ど答えが返ってこない、強いて言えば全体像が見えていないのかと思われた位である。

動物に接する心を説いている割には配置されている人に対しての教育がイマイチなのか、いずれ他の動物園もこの動物園に追従して来るであろうがその時には、現場サポート職員の質で負ける事になるのかもしれない。

本市東公園の動物園はこの点は旭山動物園を追い抜いて貰いたい、動物にも入場者にも優しく接して頂けるよう提案しておきたい。